ご あ い さ つ

2024（令和6）年度より、新たに3年間の中期計画である「JR北海道グループ中期経営計画2026」、「安全計画2026」をスタートさせました。コロナ禍をはじめとして世界情勢が大きく変化していく中、ピンチをチャンスと捉え、北海道に根ざす企業グループとして新たな時代を切り拓くべく「新たなチャレンジ・挑戦の3年」とします。お客様に安心して鉄道をご利用いただき、生活の足、ビジネスの足、観光の足として北海道の日常を支えることはもちろん、北海道の将来に貢献する、新幹線札幌延伸工事、札幌駅周辺再開発事業、北広島ボールパーク新駅、新たな観光列車の導入など開発・鉄道事業での「大型プロジェクト」を進めることで、北海道をさらに魅力的にすべく、全力で取り組んでまいります。

「安全の再生」

当社は、会社発足以降の社会環境の変化や金利低下などを受け悪化する収支の改善に取り組むうち、いつしか絶対に守らなければならない安全の基準を守ることを忘れ、2011（平成23）年の石勝線列車脱線火災事故をはじめとしてその後の一連の事故や不祥事などを発生させ、2014（平成26）年1月に国土交通大臣より「輸送の安全に関する事業改善命令及び事業の適切かつ健全な運営に関する監督命令」を受けることとなりました。

事故後に入社した社員が5割を超え、会社存亡の危機となったこれらの事故・事象で得た反省と教訓はしっかりと引継ぎ、風化させないために新たに「安全計画2026」をスタートさせました。安全問題を引き起こしたことを深く反省し、安全を最優先とする企業風土を風化させることなく、今後も「安全」を経営の根幹と位置づけ、安全基盤の再構築を一層推進してまいります。

「中期経営計画」「長期経営ビジョン」の推進

今後の見通しとして、2024（令和6）年5月には、北海道新幹線札幌延伸工事について建設主体である鉄道・運輸機構より2030（令和12）年度末の完成・開業の目標の達成はきわめて困難であるとの報告がありましたが、「長期経営ビジョン」で目指す「北海道新幹線札幌開業を機に経営自立」は変わりません。

環境が目まぐるしく変化していく中、コロナ禍後の旺盛なインバウンド需要は大きなチャンスです。グループ全体でインバウンド施策を推進します。

そして、環境の変化に強い「事業ポートフォリオの変革」、業務変革・生産性を向上すべく「DXの推進」、地球環境に貢献すべく「カーボンニュートラルの推進」、これらを実現していくためにも未来を担う「人材の確保と育成」の取り組みを一層推進します。さらに、収益拡大に繋がり、北海道の将来にも貢献することができる「大型プロジェクト」等を着実に推進します。

一方で、変化していく中でも「安全第一」は揺るぎありません。お客様に「JR北海道は安心、だから乗りたい」と繰り返しご利用いただくべく、地に足をつけた「安全」の取り組みを継続し推進します。

「当社単独では維持困難な線区」を公表してから7年が経過しました。2024（令和6）年3月に国土交通大臣から発出された監督命令に基づき、本中期経営計画の最終年度となる2026（令和8）年度末までに線区ごとに事業の抜本的な改善方策を確実に取りまとめるために、関係者の皆様ともなお一層の連携強化を図り、地域の皆様と一体となって取り組みます。

ご利用のお客様、地域の皆様をはじめとする関係の皆様に深く感謝するとともに、愛され親しまれる企業を目指し日々奮闘してまいりますので、引き続き格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長
島田　修

代表取締役社長
綿貫　泰之

C O N T E N T S

ごあいさつ……1
経営計画
長期経営ビジョン・中期経営計画の推進……3
安全の再生
当社が発生させた一連の事故・事象……7
JR北海道 安全の再生……8
安全計画2026……9
人材確保・社員教育・コンプライアンスの徹底
人材の確保……11
社員教育／コンプライアンスの徹底……12
鉄道環境の変化
JR北海道発足後35年の経過……13
持続可能な交通体系の構築に向けた取り組み……17
激甚化する自然災害への対策
冬期間における安全で安定した輸送確保の取り組み／台風や集中豪雨への対策……21
北海道新幹線
北海道新幹線の概要……22
整備スキームと札幌延伸に向けた取り組み……23
北海道新幹線固有のコストと特殊性……24
北海道新幹線の冬期対策……26
青函トンネルの防災・避難誘導設備……27
並行在来線（函館～長万部～小樽）の概要……28
北海道新幹線の営業施策……29
札幌駅部の新幹線工事……30
札幌駅周辺開発について……31
開発事業
開発事業の取り組み……33
新たな事業領域への挑戦……35
鉄道事業
都市間輸送と札幌圏の取り組み……36
観光列車の取り組み……38
業務運営の効率化～システムチェンジ……39
インバウンド需要の更なる上積みに向けた鉄道利用促進の取り組み……41
CS向上に向けた取り組み……42
環境保全の取り組み
鉄道の環境優位性……43
JR北海道グループ……45
各種データ……46
沿革……49
会社概要……50

ＪＲ北海道グループ 経　営　理　念

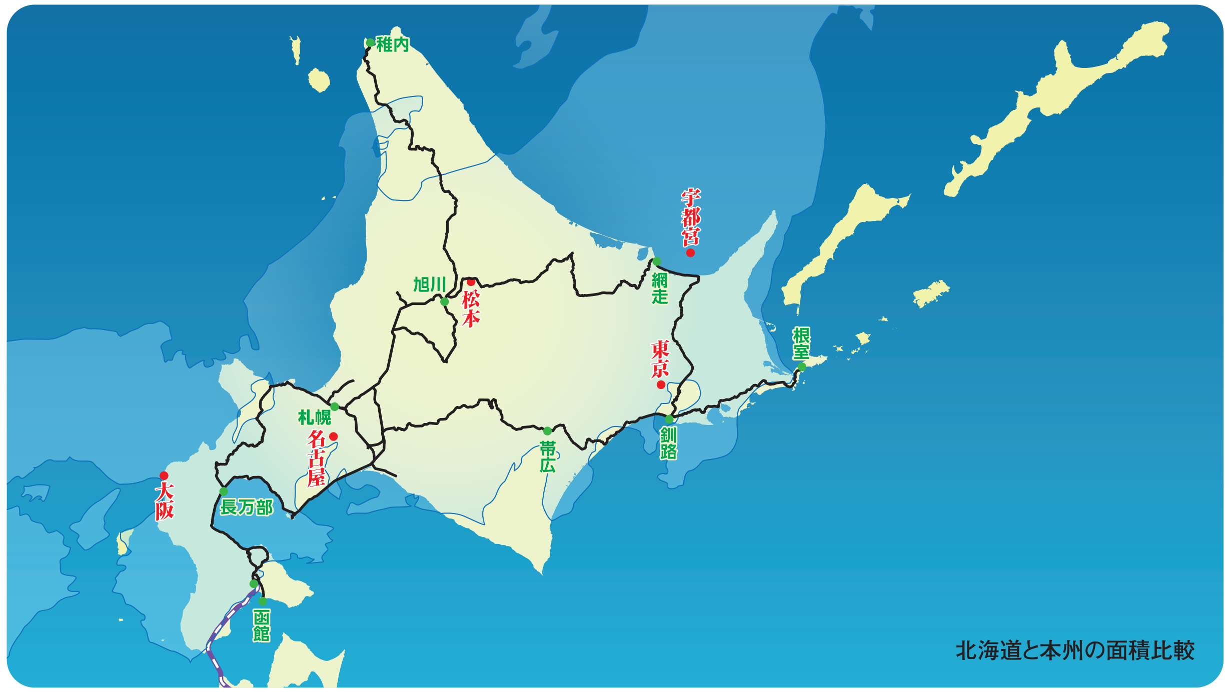
JR北海道グループは、

- お客様の安全を最優先に取り組みます。
- コンプライアンスの徹底をはじめ、企業に求められる社会的責任を果たします。
- 安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。
- 北海道に根ざす企業グループとして、地域の発展に貢献します。
- 個人の創造力とチームワークを高める企業風土を醸成し、社員の充実感の向上とグループとしての成長をめざします。

私 た ち の 誓 い

- お客様の命を守ります。社員の命を守ります。
- 「安全第一、安定第二」危ないと思ったらすぐに列車を止めます。
- JR北海道社員としての自覚を持って行動します。社会のルールを守ります。会社のルールを守ります。
- 「お客様あっての私たち」 感謝を忘れず仕事をします。
- 「確かな技術力」 身につけ、磨き、伝えます。
- 「鉄道はチームワーク」お互い声をかけ合い、進んで協力します。
- 「一人ひとりがJR北海道」 誇りを持って仕事をします。

表紙／根室線釧路～東釧路間を走行する「SL冬の湿原号」



北海道と本州の面積比較